

# もっと知りたい

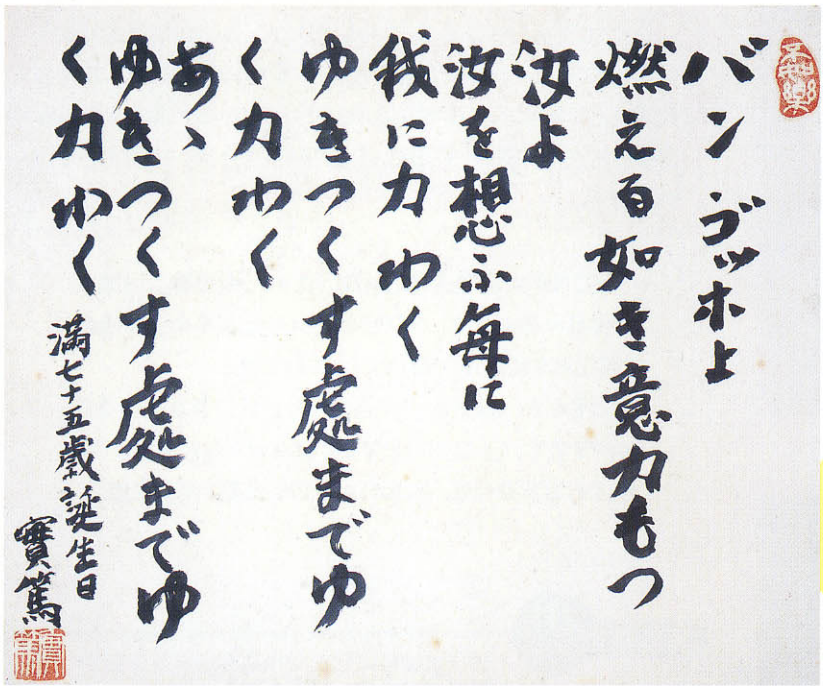
## 武者小路実篤

### 夢中になった芸術家 2

# ゴッホ

しらかば  
～白樺美術館物語・2～

### バン・ゴッホよ



実篤「バン・ゴッホ」昭和35(1960)年 新しき村美術館所蔵

実篤には、夢中になった芸術家がたくさんいましたが、白樺派の作家たちの中で一番最初にゴッホを評価したのは自分だというのが自慢の一つで、ゴッホについてはひととき強い思い入れがありました。ゴッホのどんどころに魅かれていたのでしょうか？

左の詩は明治44(1911)年、雑誌『白樺』に発表した実篤の詩で、ゴッホを題材にした世界初の文学作品とされています。

強烈な色、力強い筆づかい…。情熱がほとばしるようなゴッホの絵を、実篤はよく「自己を生かしている」と表現しました。

自分の全力を尽くして  
仕事をする真剣さに、  
若い実篤たちは共感し、  
また、どこまでも  
自分の道を歩いていこうとする  
力を得たのです。



### あなたも！

芸術作品を見たときの感動を、言葉にしてみよう！

その作品から、どんな印象を受けたかな？      そこから、あなたは何を思ったかな？

---



---



---



---



---



---



---



---





白樺美術館のために購入された、ゴッホの「向日葵」(複製)  
日本に初めて来たゴッホ作品でもある。



ゴッホの「向日葵」の前で 山本願弥太(左)と実篤 昭和13(1938)年頃

こんな人

フィンセント・ファン・ゴッホ(1853~1890年)

## まぼろし ひまわり 幻の「向日葵」

ゴッホと言えば、ひまわりの絵を思い浮かべる人が多いこと  
でしょう。

実は大正時代、山本願弥太という実業家が、実篤のすすめ  
によって白樺美術館のために購入したゴッホの「向日葵」があ  
りました。

白樺美術館とは、西洋美術の実物を広く公開するため、賛  
同者から寄付金を募って作品を買い、美術館を建てようという  
構想でした(「もっと知りたい37・39」も合わせて参照)。

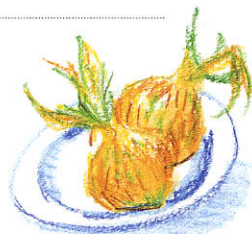
今では日本でも有名なゴッホですが、当時はほとんど知ら  
れていません。雑誌『白樺』に絵の写真を載せたり、展覧会  
を主催して複製画・実物を出品したりして、まだ珍しかった西  
洋美術を日本に紹介するという役割も、『白樺』は果たしてい  
たのです。

ところが大変残念なことに、この「向日葵」は第二  
次世界大戦のとき、保管されていた兵庫県の山本氏の  
自宅とともに空襲で焼けてしまいました。

大きくて、額が重い作品だったために疎開させるこ  
とができず、山本氏はとてもすまなかつたと言います。  
左下の写真からも、作品の大きさが想像できますね。

あなたも!

ゴッホは他にどんな作品を描いたかな?  
画集などで調べてみよう!



ポスト印象派を代表するオランダ人画家。鮮やかな色彩の情熱的な絵画で  
20世紀絵画の展開に大きな影響を与える。ひまわりのシリーズなどで知られる。